

# 予防技術検定模擬テスト

## — 解説付 —

No.84

【共通】問1 次に掲げる防火対象物のうち、消防法令上、自衛消防組織を設置しなければならないものを1つ選べ。ただし、いずれも地階はないものとする。

- (1) 平屋で延べ面積が5万㎡の大型旅客機の格納庫
- (2) 2階建てで延べ面積が4万㎡の倉庫
- (3) 30階建てで延べ面積が3万㎡の共同住宅
- (4) 5階建てで延べ面積が2万㎡の大学

【消防用設備等】問1 次の条文の( )に入る語句の組み合わせとして正しいものを、表の中から1つ選べ。

消防法施行令第32条

この節の規定は、消防用設備等について、消防長又は消防署長が、防火対象物の位置、構造( ① )設備の状況から判断して、この節の規定による消防用設備等の基準によらなくとも、火災の発生( ② )延焼のおそれ著しく少なく、かつ、火災等の災害による被害を最少限度に止めることができると認めるときにおいては、適用しない。

①                      ②

- |        |    |
|--------|----|
| (1) 及び | 及び |
| (2) 及び | 又は |
| (3) 又は | 及び |
| (4) 又は | 又は |

【消防用設備等】問2 屋内消火栓設備の加圧送水装置に関する次の記述のうち、消防法令上誤っているものを1つ選べ。

- (1) 高架水槽を用いる加圧送水装置に必要な落差(水槽の下端からホース接続口までの垂直距離)は、17mに消防用ホース及び配管の摩擦損失水頭を加えて求めた値以上の値としなければならない。
- (2) 圧力水槽を用いる加圧送水装置に必要な圧力は、0.17MPaに消防用ホース及び配管の摩擦損失水頭圧を加えて求めた値以上の値としなければならない。
- (3) ポンプを用いる加圧送水装置のポンプの吐出量は、屋内消火栓の設置個数が最も多い階における当該設置個数(設置個数が2を超えるときは、2とする。)に150ℓ毎分を乗じて得た量以上の量としなければならない。
- (4) 加圧送水装置には、当該屋内消火栓設備のノズルの先端における放水圧力が0.7MPaを超えないための措置を講じなければならない。

【防火査察】問1 違反処理に関する記述のうち、不適当なものは次のうちどれか。

- (1) 違反調査の目的は、違反事実、違反者の氏名、違反発生場所、違反対象物の用途、規模、構造、収容人員、違反内容などについて確認し、違反の全容を解明し、違反事実を特定することである。
- (2) 違反処理を留保する例としては、都市計画等により、違反建物の取り壊し、移転等の工事が具現化している場合で、違反の程度と比較衡量して、留保が妥当な場合がある。
- (3) 命令の履行期限の設定は、当該命令事項の履行までに要する社会通念上及び火災予防上の見地から妥当な期間を決定する。
- (4) 命令を発動した際、教示をしなかった場合は、当然に命令が取り消されたり、あるいは無効になる。

【防火査察】問2 A県知事から甲種第1類の免状、B県知事から乙種第2類の免状の交付を受けている消防設備士が、C県で消防法令に違反する行為をし、消防法第17条の7第2項において準用する法第13条の2第5項に基づき消防設備士の免状の返納を命令する記述のうち、適当なものは次のうちどれか。

- (1) A県知事とB県知事が事前に協議し、返納を命ずる主体がA県知事に決まった場合は、A県知事は甲種第1類の免状及び乙種第2類の免状の返納を命ずることができる。
- (2) A県知事は甲種第1類の免状についてのみ免状の返納を命ずることができる。
- (3) C県知事は、甲種第1類の免状及び乙種第2類の免状の返納を命ずることができる。
- (4) 甲種第1類の免状の返納を命ずる場合は、A県知事は行政手続法に基づき弁明の機会を付与した後に、免状の返納を命ずる必要がある。

【危険物】問1 指定数量の大小について、次のうちで正しいものはどれか。

- (1) 第1種自己反応性物質 < 第1種可燃性固体 < 第1種酸化性固体
- (2) 第1種自然発火性物質及び禁水性物質 < 第1種自己反応性物質 < 第1種酸化性固体
- (3) 第1種自然発火性物質及び禁水性物質 < 第1種酸化性固体 < 第1種可燃性固体
- (4) 第1種自己反応性物質 < 第1種自然発火性物質及び禁水性物質 < 第1種可燃性固体

【危険物】問2 第4類の危険物を貯蔵し、又は取り扱う屋外タンク貯蔵所等において貯蔵することができる危険物以外の

〔行政手続〕

問1 答 (1)

〔警防〕

問1 答 (3)

解説 (3) 第3類危険物は、一般に水による消火は不可能であるため、乾燥砂又はパーライト等で窒息消火する。

問2 答 (4)

解説 (4) 市街地に面する部分及び市街地の延焼火災を優先とする。

問3 答 (2)

解説 (2) 火災発生路線並びに直近駅及び隣接駅の連絡路線の車両運行を停止させる。

〔救急〕

問1 答 (5)

解説 フッ化水素は、数秒というごく短時間の接触で深い潰瘍を形成し、また、低カルシウム血症による不整脈(心室細動、心停止、QT延長)を来するため注意が必要である。

問2 答 (2)

解説 a バレー徴候

(上肢の場合)

・眼を閉じて腕をまっすぐ前方に伸ばし、手掌面を上方に向け、指を揃えて20秒～30秒間保たせる。①前腕が垂れ下がる。②手は回内位(かいないい)をとり、手背が上方に向く。麻痺側の上肢は回内し、次第に落ちてくる。

(下肢の場合)

・腹臥位で下肢を立てると麻痺側が落下する。

b 妊娠により、高血圧、尿蛋白、浮腫が出現した場合に妊娠高血圧症候群という(以前は、妊娠中毒症といていたもの)。本症例は、子癇を示しているが、この子癇は、妊娠高血圧症候群の最も重い症状と考えられている。突然の意識消失、強直性痙攣、その後の間代性痙攣が続く。収縮期血圧は200mmHg以上になることもある。また、子癇の1/4には高血圧性脳出血を伴う。

c 強直性痙攣でも舌咬傷がなければ無理やりバイトブロックなどを口腔内に挿入しない。することによってかえって、歯を損傷したり窒息することがある。

d 痙攣は再発することがあり、また、わずかな刺激により痙攣が惹起されるため、搬送中は眼に光が入らないようにする。

e NICUは、新生児集中治療管理室である。

問3 答 (2)

解説 火災・災害等即報要領(昭和59年10月15日付け消防災第267号 消防庁長官通知)に記載されている直接即報基準に該当する救急・救助事故即報については、次の基準に該当する事故(該当するおそれがある場合を含む)について報告すること。

- (1) 列車、航空機、船舶の衝突、転覆等による救急・救助事故
- (2) バスの転落等による救急・救助事故
- (3) ハイジャック及びテロ等による救急・救助事故
- (4) 映画館、百貨店、駅構内等不特定多数の者が集まる場所における救急・救助事故
- (5) その他報道機関に取り上げられる等社会的影響度が高いもの

予防技術検定模擬テスト

〔共通〕

問1 答 (4)

- 解説 (1) 消防法施行令第4条の2の4参照。  
 (2) 消防法施行令第4条の2の4参照。  
 (3) 消防法施行令第4条の2の4参照。  
 (4) 消防法施行令第4条の2の4第1号口参照。

〔消防用設備等〕

問1 答 (4)

解説 以前は「①及び、②及び」だったが、平成16年の性能規定化に係る改正の際に「①又は、②又は」と適用条件が緩和された。

問2 答 (2)

- 解説 (1) ○ 消防法施行規則第12条1項7号イ(イ)参照。  
 (2) × これに落差の換算水頭圧を加えなければならない。消防法施行規則第12条1項7号ロ(イ)参照。  
 (3) ○ 消防法施行規則第12条1項7号ハ(イ)参照。  
 (4) ○ 消防法施行規則第12条1項7号ホ参照。

〔防火査察〕

問1 答 (4)

- 解説 (1) 違反処理マニュアルにより正しい。  
 (2) 違反処理マニュアルにより正しい。  
 (3) 違反処理マニュアルにより正しい。  
 (4) 教示をしなかった場合でも、命令が取り消されたり、あるいは無効になることはないので、不適当。

問2 答 (2)

解説 (1) 免状の返納を命ずることができる主体は、免